

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、板屋圏域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和5年8月23日（月）14時から15時50分まで
参加者	委員：22人 事務局：10人
場所	アイミティ浜松 ホール
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 地域包括支援センター板屋圏域協議体 会長</p> <p>3. 前年度協議体会議の振り返り 生活支援コーディネーターより、パワーポイントを用いて昨年度第1～3回の協議体会議について振り返りを行った。また、アクト地区社協の総会後に「認知症と薬」と題し講演会が実施されたことも紹介。</p> <p>4. 協議内容 ■認知症を学び、地域で支えよう【地域包括支援センターより】 地域包括支援センター板屋より、認知症について説明。認知症とはどんなものなのか、その治療や予防についての考え方、認知症の人への対応の仕方について学んだ。また、認知症ひとり歩き（徘徊）支援のポイントについては、寸劇でわかりやすく説明された。</p> <p>5. グループワーク ～わたしたちが認知症の方にできること～</p> <p>【アクト地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の犬の散歩が見守りになっているのでは。 ・「認知症」が身近になっていない。 ・症状や理解度も様々な人がいる→周知が必要。 ・85歳以上の高齢者→実際はデータよりも認知症者が多いのでは。 ・目や耳が悪いと短気になってしまう。 ・毎月の町内の集まりで、認知症の人が一人いる。 →どんな対応をすれば良いか、家族にどのように伝えるべきかが難しい。 ・本人の自覚があれば包括につなげていく。 ・古くからの町だと同居世帯が多い。 ・日頃からの声掛けが緊急対応につながる。 <p>【中央地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族や近所の人、認知症の人がいる。 ・高齢になり施設に入ってしまう人が多く、人との関わりが減っている。 ・認知症の方に対して責めないように接することが大事。 ・周りの人のサポートが必要になる。 ・地区内でのサロン活動が多くあるが、そういった活動に出てこれない人のほうが認知症の人が多い。 →活動が予防につながっている。人と交わることが大切。 <p>【江東地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座の動画にて、対応の間違ったやり方、正しいやり方の両方をやってくれたのが良かった。 ・被害妄想、精神疾患の方の対応に苦慮しているが、できるだけ本人の話を聞くようにしている。たまると良くない方向にいつてしまうこともあるため、

	<p>色々なところで聞いてあげることが大事。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロン、シニアクラブがある江東地区。認知症の人をあたたかく見守るメンバーがいることがうれしい。 ・次の担い手につないでいかないとならない。 <p>【駅南地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識が足りてないことに気づいた。 ・夕方になるとふらふらしている人がいる。事故の危険もあり、地域での見守りも限界があると思う。 ・認知症の方への声掛けは難しい。通報までに1時間くらいかかる。 ・1人暮らしだと自分が認知症になっても気づいてくれる人がいないのではないか。 ・徘徊は歩きだけでなく、自転車や車もある。 <p>6. 事務連絡</p> <p>7. 閉会 地域包括支援センター板屋圏域協議体 副会長</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>今回の会議では、認知症をよく知った上で委員からの率直な意見を聞くことができた。この圏域ではサロンが多くある地域もあり、人と関わるのが一番の認知症予防になることを再認識するとともに元気な活動的な高齢者に限らず認知症になっても楽しく参加できる地域交流の場があると良いと感じた。</p> <p>圏域内で実際にあった事例を紹介し身近で起こった事例があったこと、認知症という誰もがなり得る身近なテーマであることから委員の関心も高い。協議体メンバーが興味あることを拾いながら、板屋圏域で行える認知症支援について検討していきたい。</p>